

## H20年1月18日モンゴル班ミーティング

### 提案「モンゴルにおける実験経済学の可能性」

文責 東工大 中丸麻由子（山村プロジェクト・理論班メンバー・H20年1月11日）

#### （1）概略

遊牧民族であり草原が共有地であったモンゴルでは、土地の私有化が始まっている。土地の私有化をすると共有地の悲劇が起これにくくなるというが、一方で私有化のために土地の囲い込みや定住化が進み、従来の遊牧方法や持続可能な草原利用に関する慣習が機能しなくなるために草原生態系が崩壊し、遊牧によって培われてきたモンゴルの文化や慣習までも崩壊してしまう可能性も危惧されている。

モンゴルの場合は、肥沃ではない草原生態系で広大な土地を移動してきた遊牧民族であり、その生態系に適応した慣習や規範が存在しており、それによって土地の私有権が無くても、公共財としての草原生態系を維持してきたと推測される。これらのことを検討するためには、公共財ゲーム（注1）をモンゴル人で行い、共有地の悲劇が避けられるのかどうか確認することも一つの研究方法である。また、このゲーム枠組みを通じて、（モンゴル人の場合に）どのような条件下では共有地の悲劇が避けられるようになるのかも検討可能である。

また、モンゴル人は草原生態系で広大な土地で遊牧民族として生活してきたためか、他の民族とは異なる独自の性格特性をもっていると聞く。この独自性を調べるためにも、公共財ゲームや最後通牒ゲーム（注2）など、様々なゲームを用いた実験を用いて、モンゴル人の特質を知るということも学問的に興味深い。実験で得られた結果を吟味する時には、文化人類学で蓄積された研究成果が手がかりを提供すると思われる。実際、アメリカ・ヨーロッパの研究（例えば *Science* などにも掲載済）では、文化人類学者と実験経済学者のグループによる共同研究によって、実験経済学の結果の文化比較を行い、文化毎の行動様式の違いを統一的に説明している。

モンゴルでは砂漠化・水問題・鉱物採掘による環境汚染など様々な環境問題がある。公共財ゲームは環境問題の抱えるジレンマを適切に表現しているモデルの一つであるということもあり、公共財ゲーム等の実験を行うことはモンゴルの環境問題と人の意思決定を考えるうえで重要であると思われる。また、生態系保全と経済活動との関係を模索するような新たな実験も可能かもしれない。

## (2) 実験経済学研究グループについて

大阪大学社会経済研究所 西條辰義 教授

東京工業大学大学院 社会理工学研究科 大和毅彦 教授

他 関係者

西條教授や大和教授は実験経済学の日本を代表する研究者であり、日本、中国やアメリカでの公共財ゲームの実験論文など様々な論文を出版されている。今年度から始まった特定領域「実験社会科学ー実験が切り開く21世紀の社会科学ー」は西條教授がリーダーである。また、山村プロジェクト理論班メンバーの中丸とは共同研究を行っており、西條・大和グループのモンゴルでの実験結果を元に、中丸がモンゴル生態系と社会に関する理論モデルを構築する予定である。

## (3) 実験に関する簡単な説明

被験者を募り、ある場所でコンピュータを介して実験を行う。ゲームの手番に関する質問紙にも答えてもらう。被験者は100人必要。また、被験者には謝金を支払う。

実験の時期、回数：計画が進み次第、話し合いたい。

実験場所：ウランバートル市内、例えばモンゴル大学などの大学を希望。あるいは、必要であれば特定の地域（注3）。

初回の実験内容：実験の手始めとして、日本、アメリカ、中国などで行った実験（参考文献参照）のレポートをする。そして、日本やアメリカ、中国で行った結果と比較しながら、その結果をもとに次の実験枠組みを考えていきたい。（初めての場所で実験を行う場合は、まずは以前の研究のレポートを行うことは定石）

## (4) モンゴル班への要望

実験をモンゴルで行うための、モンゴルでのコネクションが必要であり紹介をお願いしたい。

予算は今回はすべて実験側で用意する。（西條・大和教授：特定領域のリーダーなど様々な研究プロジェクトに参加しており、山村プロジェクトに今回予算をお願いすることは全くありません）

もし可能であれば、モンゴル班のメンバーから研究のアイデアなどを頂き、お互いフィードバックし合いたい。これも必要に応じて議論して行きたい。

(5) 研究に関する申し合わせについて

後日、必要に応じて申し合わせを行う予定である。

(6) 参考文献リスト

西條・大和先生の論文（関連のあるもの数本）

Casin, Saijo and Yamato (2002) *Experimental Economics*, 5:133–153

Casin, Saijo, Yamato and Yokotani (2004) *Games and Economic Behavior* 49, 81–102

環境問題と絡めた公共財ゲームについて

Milinski et al. (2006) *PNAS*, 103, 3994–3998.

ゲームを使った、文化間比較の研究

Henrich et al. (2001) *American Economic Review*, 91(2), 73-79.

Henrich et al. (2005) *BEHAVIORAL AND BRAIN SCIENCES* **28**, 795–855

Henrich et al. (2006) *Science*, 312, 1767-1770.

(7) 脚注について

（注1）非協力へのインセンティブの高い状況で、どの程度協力をするのか見極める実験。共有地の悲劇を確かめる上で、適した実験方法。

（注2）個人の公平性度合いについて調べる実験。

（注3）場合によっては、土地の肥沃度によって人々の公共財（草原生態系）への考え方も異なっているかもしれないため、3，4カ所選んで（砂漠化の進む地域（南部）、肥沃な地域（北部）、この2つの中間地点。あるいは都市近郊）実験を行う必要性もあるかもしれない。

以上